

*GCA*サヴィアン株式会社

2013年12月期（1月－12月） 決算説明資料

2014年2月13日

G C A
S A V V I A N

（東証1部：コード2174）

GCAサヴィアンの特徴

Philosophy

経営理念 : “Trusted Advisor for Client’s Best Interest”

Firm

日本で唯一のグローバル・プラットフォームを持ち、上場している
独立系(専業)M&Aアドバイザリーファーム

Advisory

クロスボーダー案件や純粋MBO等、難しい複雑な案件を多数
手掛ける

Human Resource

プロフェッショナルがクライアントのために仕事に集中できる
人材評価システム

GCAサヴィアのランキング

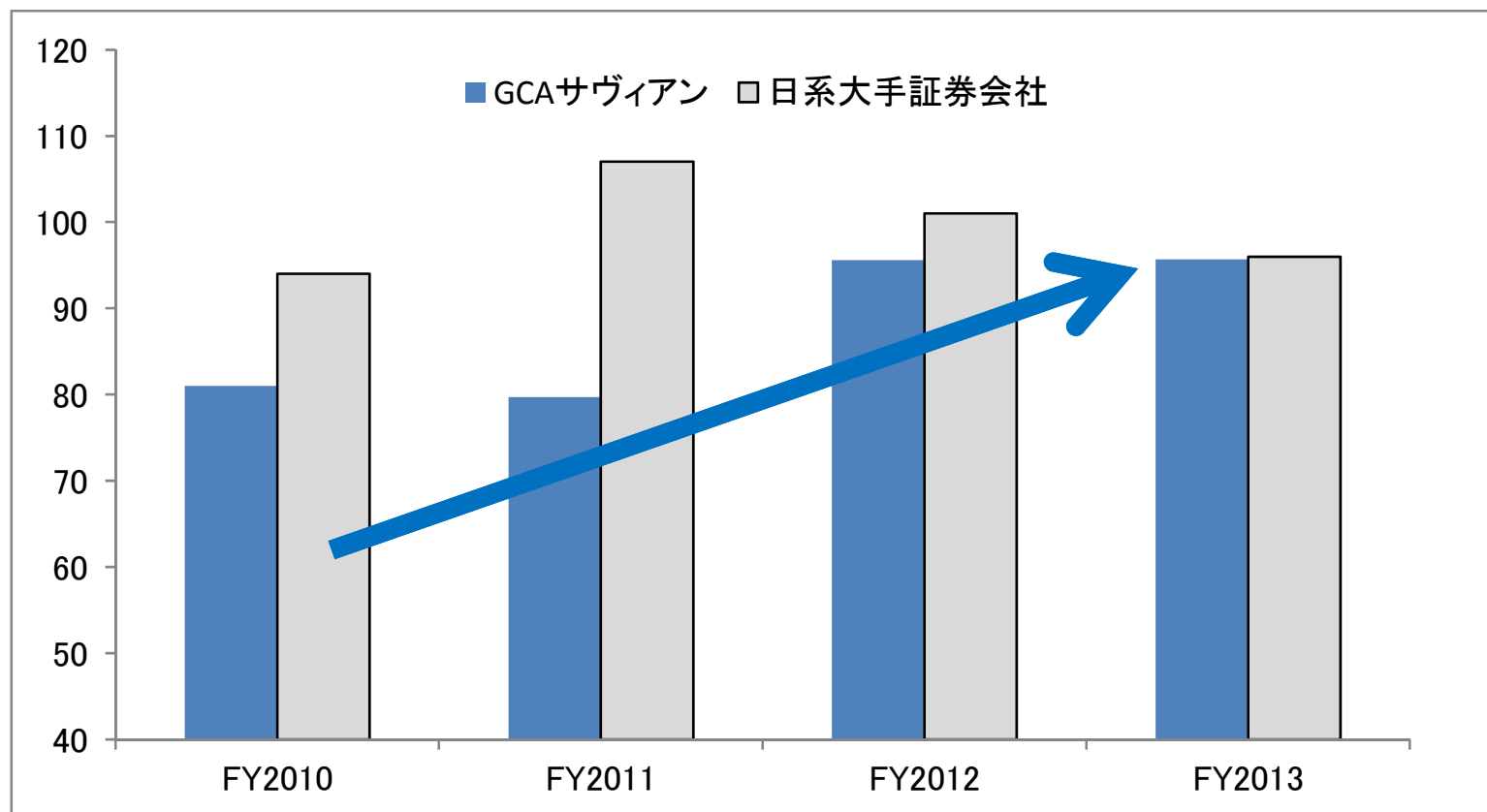
2013年の日本関連リーグテーブルにて案件数ベースで第7位
金額ベースでは案件ベースでトップの「みずほ」とほぼ同水準

2013年 日本のM&Aにかかわった ファイナンシャルアドバイザー:案件数別			
アドバイザー		取引金額 US\$ mil.	案件数
1	みずほ	7,500	74
2	野村證券	16,366	69
3	三井住友FG	18,928	61
4	大和証券	9,293	50
5	三菱UFJモルガンスタンレー	35,545	45
6	KPMG	2,974	39
7	GCAサヴィア	6,676	33
8	デロイト	2,006	23
9	ゴールドマンサックス	24,922	22
10	PwC	2,894	21

GCAサヴィアの売上規模

M&Aアドバイザリー売上高は大手証券会社と並ぶ規模まで成長

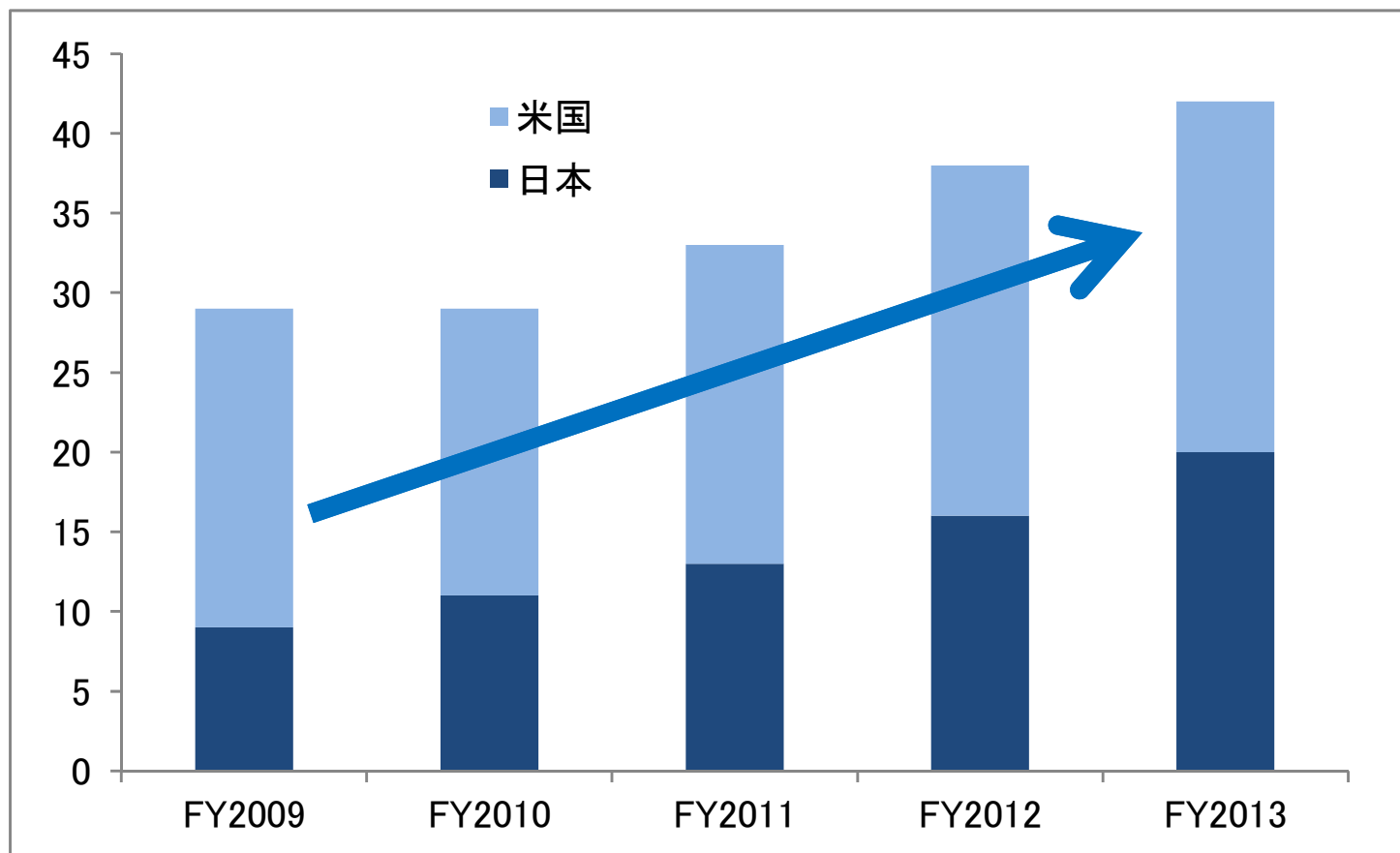
(単位: 百万円)



シニアプロフェッショナルの推移

アドバイザリー事業 = シニアプロフェッショナル増加による成長

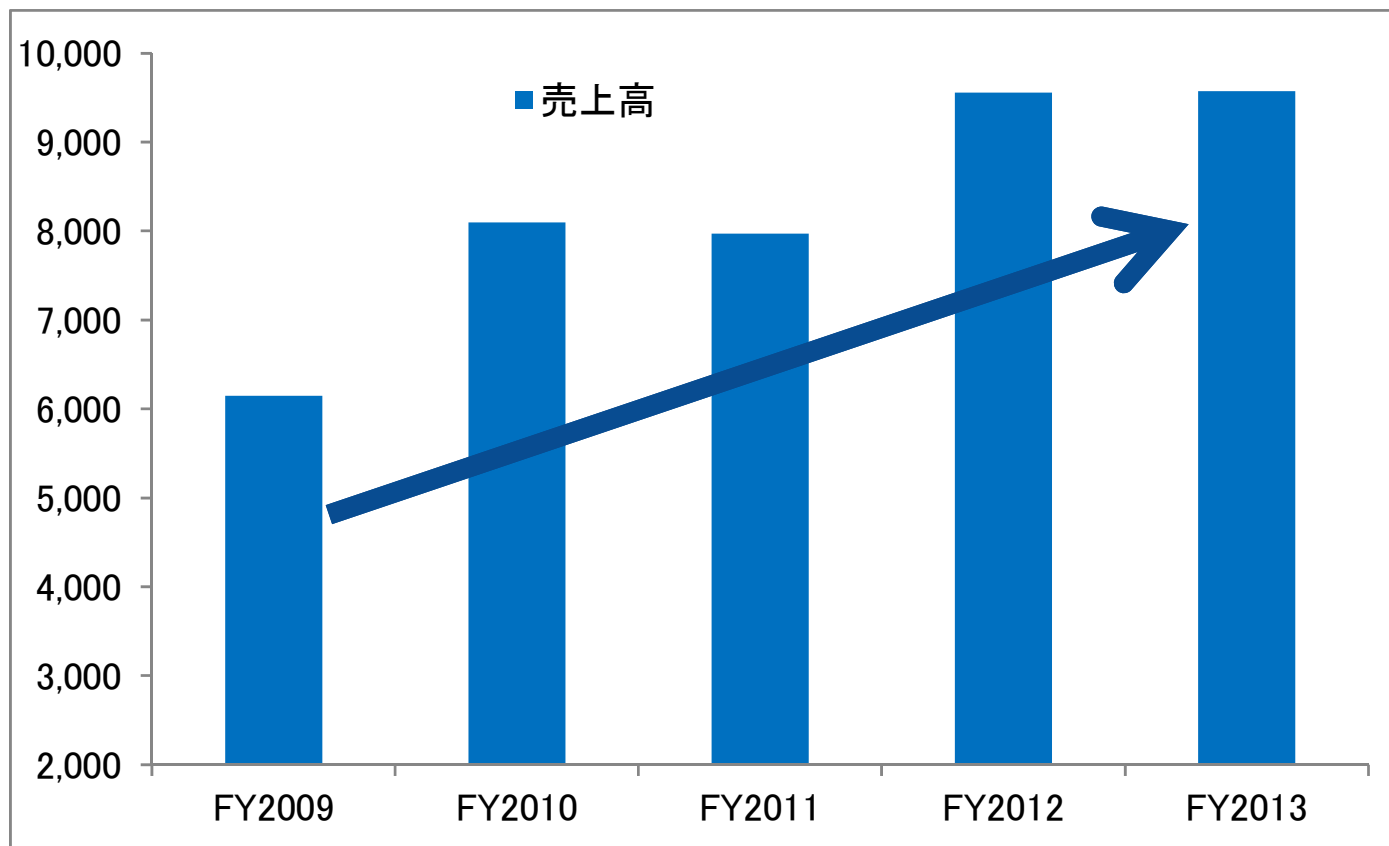
(単位:人)



売上高の推移(ファンド非連結)

オリジネーションの強化 = 更なる売上増加を目指す

(単位:百万円)



FY2013年のM&A市場環境

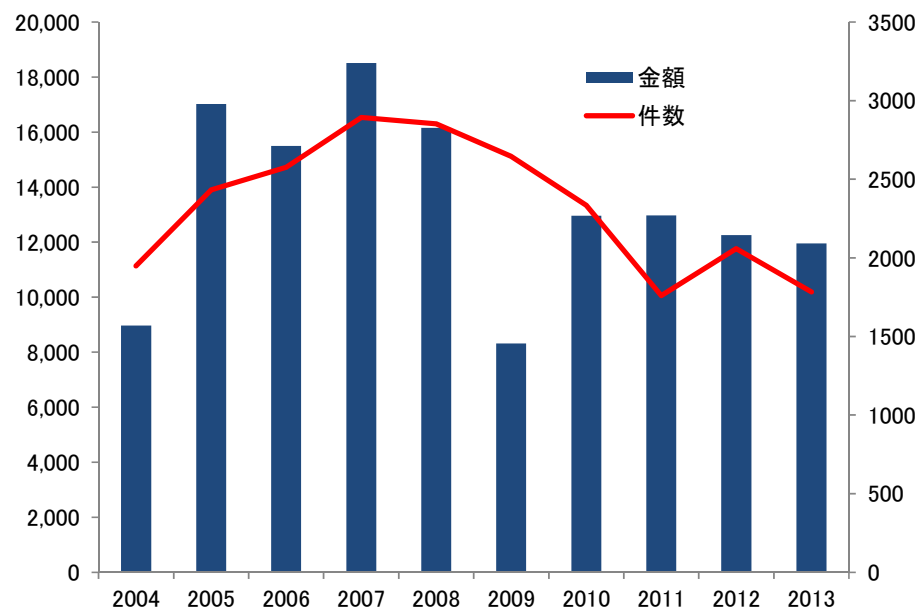
日米のM&A市場の推移

2013年は日米ともにM&Aが金額・件数ともにやや低調な年であった

日本のM&A市場

(金額 : 十億円)

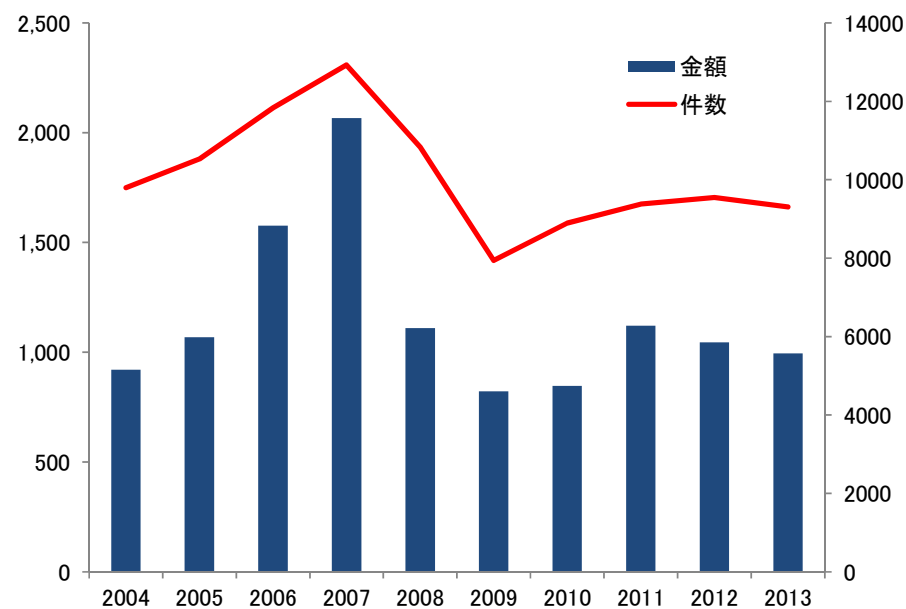
(件数)



米国のM&A市場

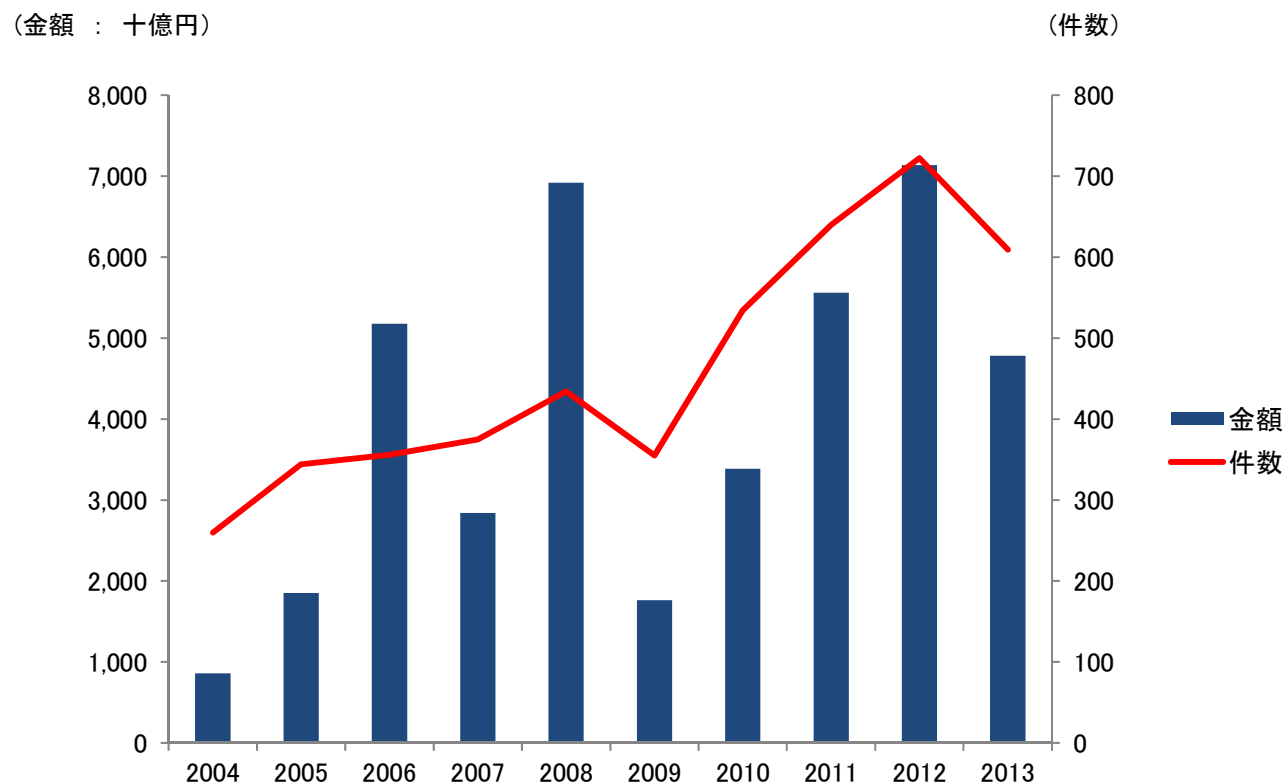
(金額 : 十億ドル)

(件数)



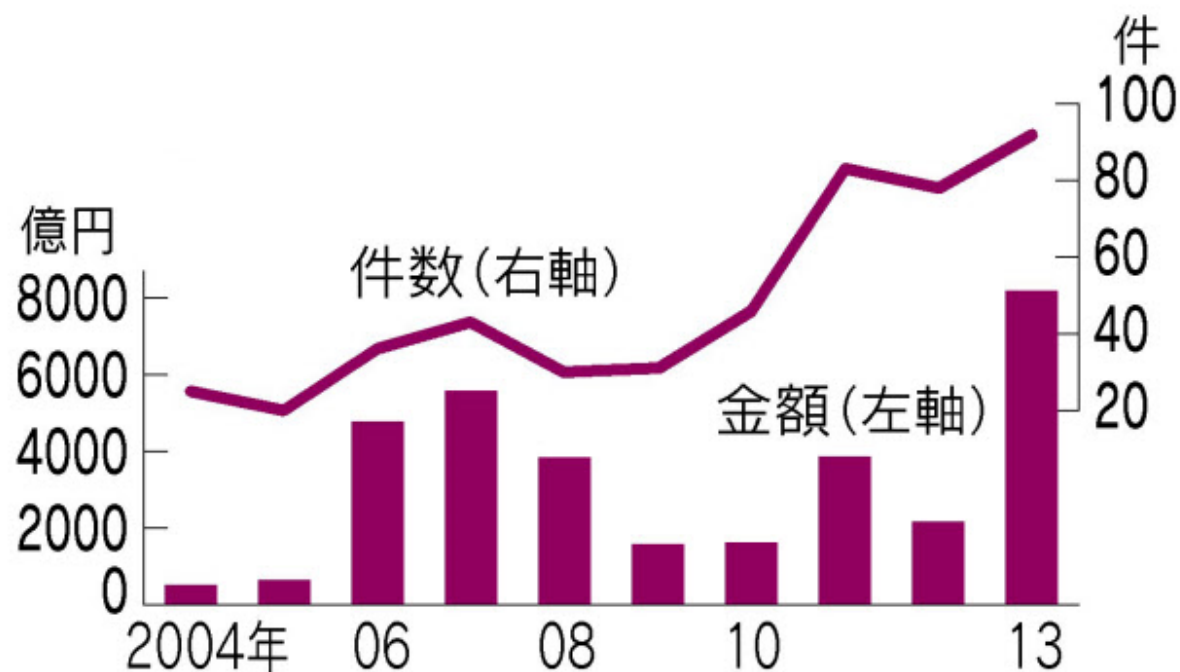
日本企業によるクロスボーダー案件の減少

日本企業によるクロスボーダー案件 (IN-OUT)は2013年において金額ベースで前年比33%減少



アジア地域のクロスボーダー案件は増加

一方、日本企業のアジア地域へのクロスボーダー案件は大幅に増加
当社の2013年のアジア関連売上高も2012年の3倍(2.5→7.9億円)となった



FY2013年の業績

2013年12月期 の総括



2013年12月期は、ファンド連結ベースで、売上高223億円(107%増)、営業利益41億円(53%増)となり、対前期比で大幅な増収増益となった。



ファンド非連結ベースでも、売上高は横ばいだったもののメザニンファンドの成功報酬計上により営業利益は9%の増益となった。



アドバイザリー事業においては、2013年は日米のM&A市場が減少した影響もあり、当社の日米共同案件が減少したが、日米以外のクロスボーダー案件(主にアジア)や投資ファンドによるEXIT案件受注増で収益を確保。



純利益は11億円となり、前期の税効果を除いた実質純利益から28%増益。

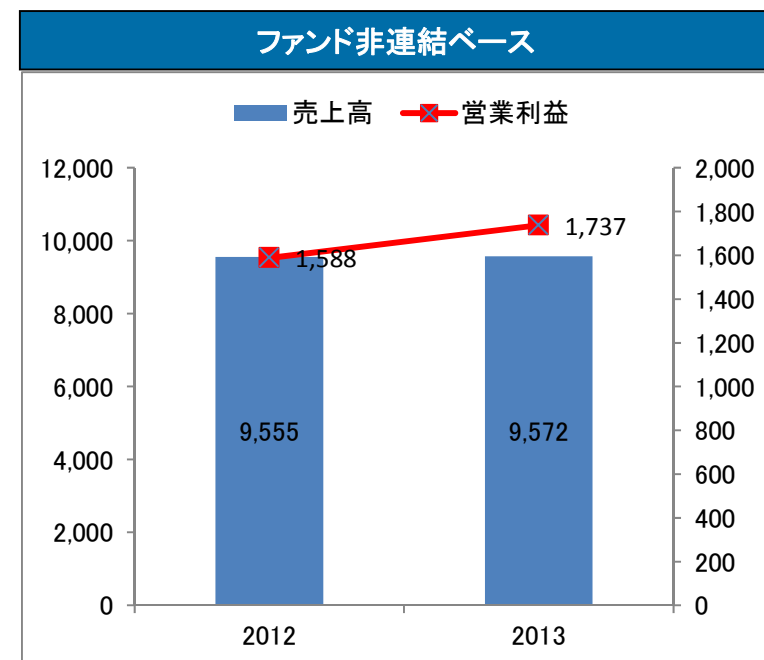
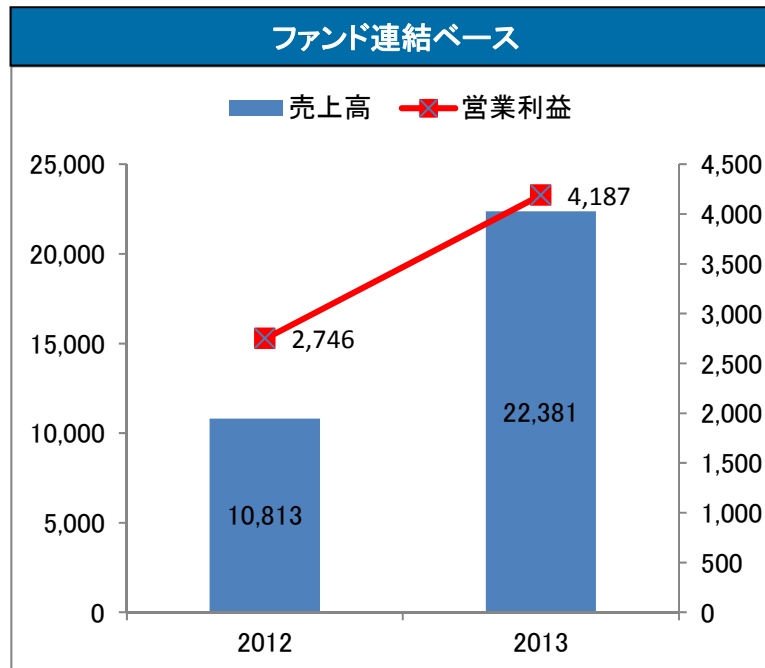


期末配当は1株あたり5円から8円へと増配。1株あたり5円の間配当とあわせ合計13円/年(配当性向30%)。年間最低10円のコミットメントをクリア。

2013年12月期 の業績

- ✓ 当期はファンドによる7件の投資回収により、連結ベースでの売上高・営業利益は大幅に増加
- ✓ ファンド非連結ベースでも、メザニンファンドの成功報酬が寄与して増益となった。

(単位: 百万円)



2013年12月期 の業績 – ドメイン別売上

- ✓ アドバイザリー事業は前期計上のメガディールがなく日米共同案件も減少したが同水準の売上を確保
- ✓ 前期の税効果を控除した実質純利益から28%の増益となった。

(単位: 百万円)

	実績 ⁽¹⁾				前期比	増減率
	2013	率	2012	率		
(売上高)						
アドバイザリー						
日本	4,124		4,395		(271)	(6.2)%
米国	3,914		4,065		(151)	(3.7)%
デューデリジェンス	308		346		(38)	(11.0)%
アセットマネジメント	1,226		749		477	63.7 %
ファンド非連結ベース	9,572		9,555		17	0.2 %
ファンドでの売上	14,035		1,996		12,039	603.2 %
連結消去	(1,226)		(738)		(488)	66.1 %
ファンド連結ベース	22,381		10,813		11,568	107.0 %
(営業利益)						
ファンド非連結	1,737	18.1%	1,588	16.6%	149	9.4 %
ファンド	2,450		1,158		1,292	111.6 %
ファンド連結	4,187	18.7%	2,746	25.4%	1,441	52.5 %
(純利益)	1,125	5.0%	1,259	11.6%	(134)	(10.6)%

(ご参考) 税効果を控除した純利益

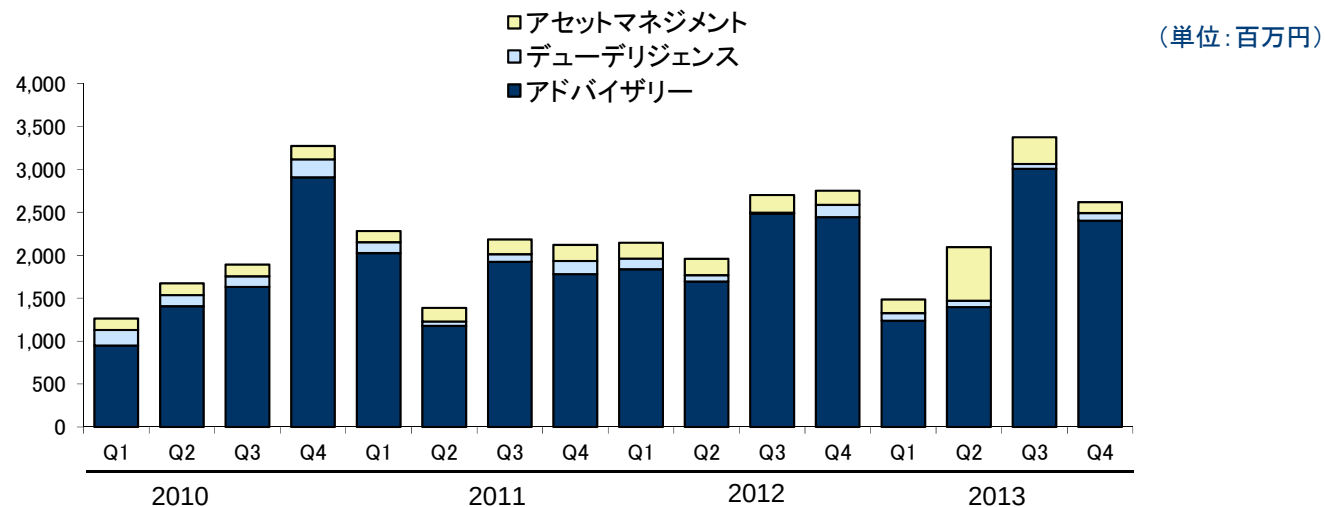
(純利益)	1,125	879	246	28.0 %
-------	-------	-----	-----	--------

注(1) 2013年実績の平均為替レート: ¥97.65/US\$および¥152.71/GBP
2012年実績の平均為替レート: ¥79.83/US\$および¥126.50/GBP

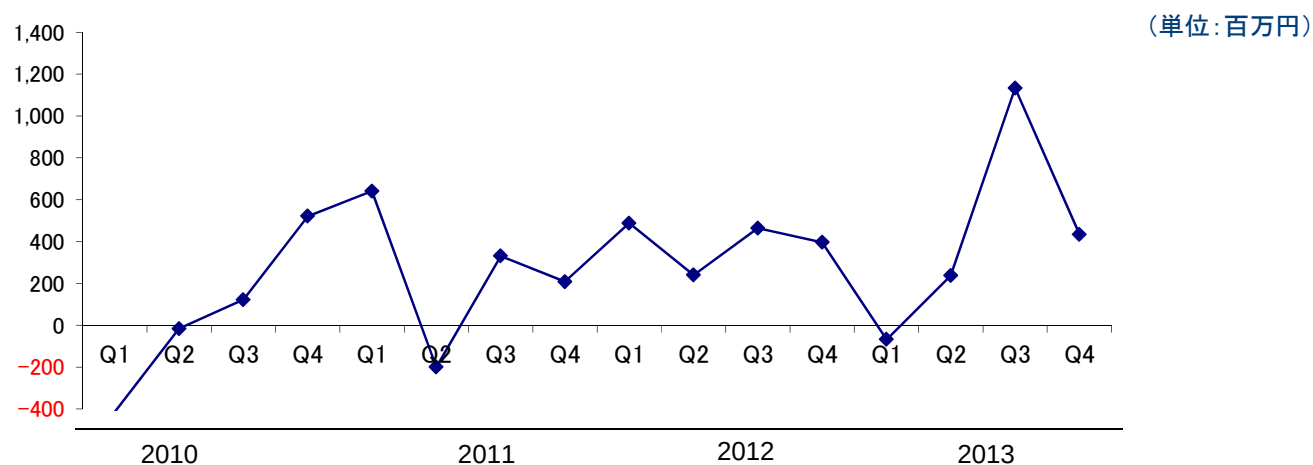
売上・営業利益の四半期推移

✓ 2013年前半は多少落ち込んだものの2012年後半から2013年後半にかけて回復基調

売上 四半期推移（ファンド非連結ベース）



営業利益 四半期推移（ファンド非連結ベース）



バランスシート

- ✓ ROEは2012年は22 %、2013年は18 %と高水準を維持。
- ✓ メザニンファンドの投資回収が進み、少数株主持分減少でファンド連結の純資産は減少

(単位: 百万円)

ファンド連結			ファンド非連結		
科目	2012/12 ⁽¹⁾	2013/12 ⁽²⁾	2012/12 ⁽¹⁾	2013/12 ⁽²⁾	
現預金等	5,556	7,147	4,781	5,659	
売掛金	1,033	1,154	1,033	1,154	
営業投資有価証券 ⁽³⁾	15,491	5,328	255	328	
営業貸付金 ⁽³⁾	10,589	1,008	240	17	
その他	1,128	482	1,010	473	
流動資産	33,799	15,119	7,321	7,631	
有形固定資産	235	239	235	239	
投資有価証券	251	287	251	287	
その他	1,079	1,191	1,077	1,192	
固定資産	1,565	1,717	1,565	1,718	
資産合計	35,364	16,836	8,886	9,349	
未払法人税	488	268	488	268	
その他	2,418	2,149	2,407	2,135	
負債合計	2,906	2,417	2,895	2,403	
株主資本	7,644	8,260	7,580	8,192	
自己株式	(2,000)	(2,000)	(2,000)	(2,000)	
為替換算評価額等	412	753	411	754	
少数株主持分 ⁽³⁾	26,402	7,406			
純資産合計	32,458	14,419	5,991	6,946	
負債・純資産合計	35,364	16,836	8,886	9,349	

ファンド非連結→
の自己資本比率

74%

注 (1)2012年12月31日の為替レート : ¥86.58/US\$および¥139.53/GBP
 (2)2013年12月31日の為替レート : ¥105.40/US\$および¥173.74/GBP
 (3)ファンド連結により影響を受ける科目

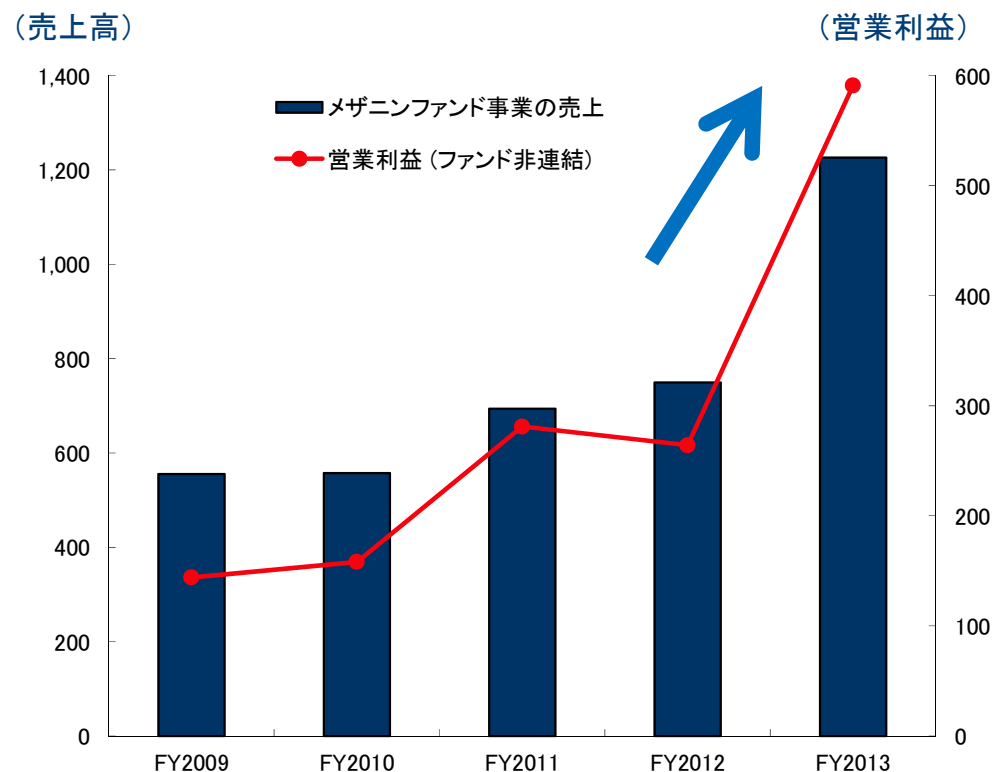
その他トピックス

メザニンファンド事業

- ✓ メザニンファンド事業の業績推移はきわめて順調
- ✓ 当期から成功報酬を計上

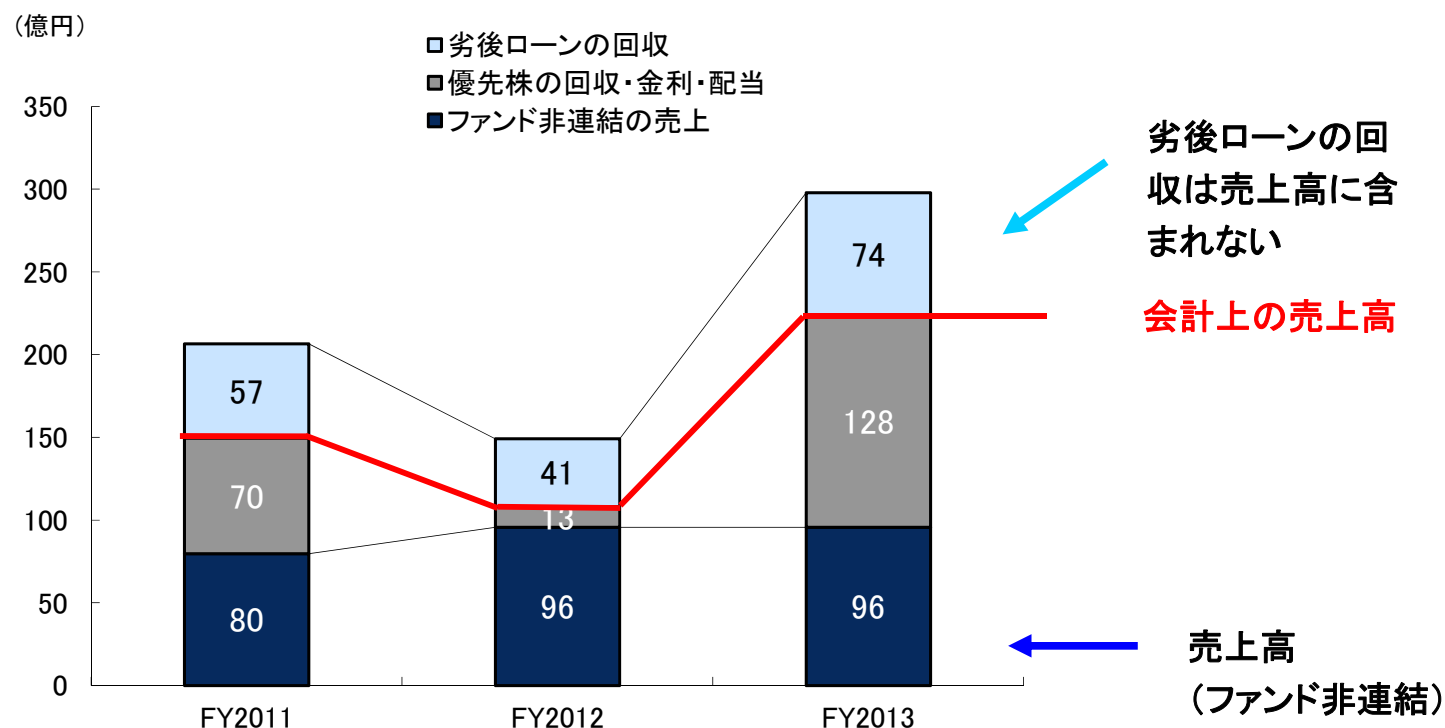
(単位: 百万円)

- ✓ 当期は7件と投資回収が進み当期より成功報酬を計上。
- ✓ 当期までに3つのファンドから累計18件、約430億円の投資を実行。
- ✓ PEファンドが主導するバイアウトメザニン案件、事業会社向けのコーポレートメザニン案件共に新規ディールフローは途切れることなく続いており、案件パイプラインは豊富。



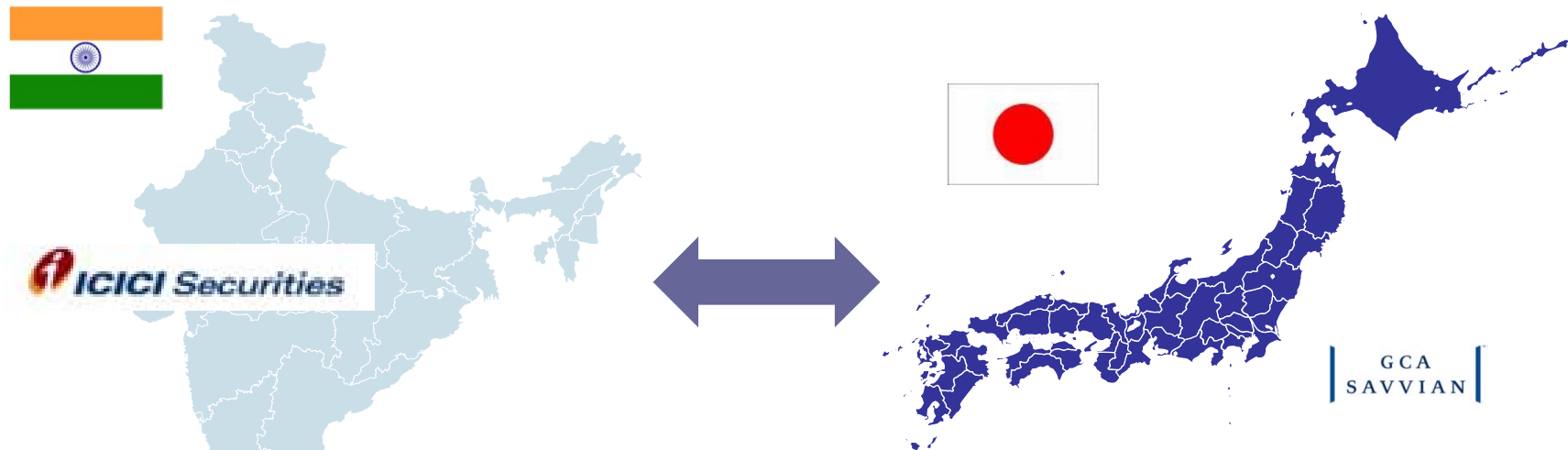
ファンド連結の売上高 計上基準

✓ ファンド連結会計において、メザニンファンドによる優先株の回収は売上高となる。



インドにおけるICICI証券との業務提携

- ✓ 2013年10月、民間最大手であるICICI銀行傘下のICICI証券とM & A関連の業務提携を締結
- ✓ 圧倒的情報量を有するICICI証券と協業し、より多くのインド案件情報の提供が可能となる



2013年の代表的な案件

2013年も難しい案件を数多く成約



オリックスをスポンサー
とした1stホールディングス経
営陣によるMBO
(1stホールディングス経営陣への
アドバイザー)

2013年12月クローズ



Truliaによる
Market Leaderの買収
(Market Leaderへの
アドバイザー)

2013年8月クローズ



東レによる
Zoltek Companies, Inc.の買収
(東レへのアドバイザー)

2014年クローズ予定

コーポレートゴールの評価

2013年12月期のコーポレートゴールと評価

- | | |
|---|---|
| (1) コスト構造改革の立案・実行(2014年からの東京本社とニューヨーク事務所の賃料の減少)
－ 2014年からの賃料約2億円を削減 | ● |
| (2) 欧州・アジア地域における提携先M&Aアドバイザリーファームとの連携強化
－ インドにおいてはICICI証券と提携、欧州においては親密先に駐在員を派遣 | ◐ |
| (3) GCAサヴィアンブランドの浸透
－ 会社主催のセミナー等を積極的に開催 | ● |
| (4) 日米クロスボーダーの共同案件について30%増
－ 当期においては大幅減少 | ◑ |
| (5) 米国以外の日本企業によるクロスボーダー案件について30%増
－ 金額ベースで807百万円 → 1,293百万円と60%増 | ● |

2014年12月期 のアウトルック



2014年は米国での景気回復の中、M & Aの増加が予想される。
米国の事業会社と投資ファンドはともに現金積み上げでM & A資金は豊富。



日本企業は、株価と業績回復を受けて海外投資を益々加速させる。
当社のパイプラインも増加傾向にある。



日米とも2013年はそれぞれ4人のシニアプロフェッショナルを採用。
今後の受注拡大を目指す。なお、2014年も増員を予定。



日本リージョンにおいては、セルマネジメント(次頁参照)という新たな組織
制度を導入し、受注強化、人財育成および業務の効率化を図る。



ホテリング導入等により事務所賃料は前期比約2億円削減(東京とNY)。
メザニンファンド事業では2013年に続き2014年も成功報酬計上予定。



2014年度中にIFRS(国際会計基準)の導入を予定。グローバル化への準備
を進める。

セルマネジメント

目的

1. 受注強化
2. 人財育成
3. 業務の効率化

組織

(2013年) 4つのチーム

- ① オリジネーションチーム
- ② エグゼキューションチーム
- ③ サポートチーム
- ④ バックオフィス



(2014年) 10のセル

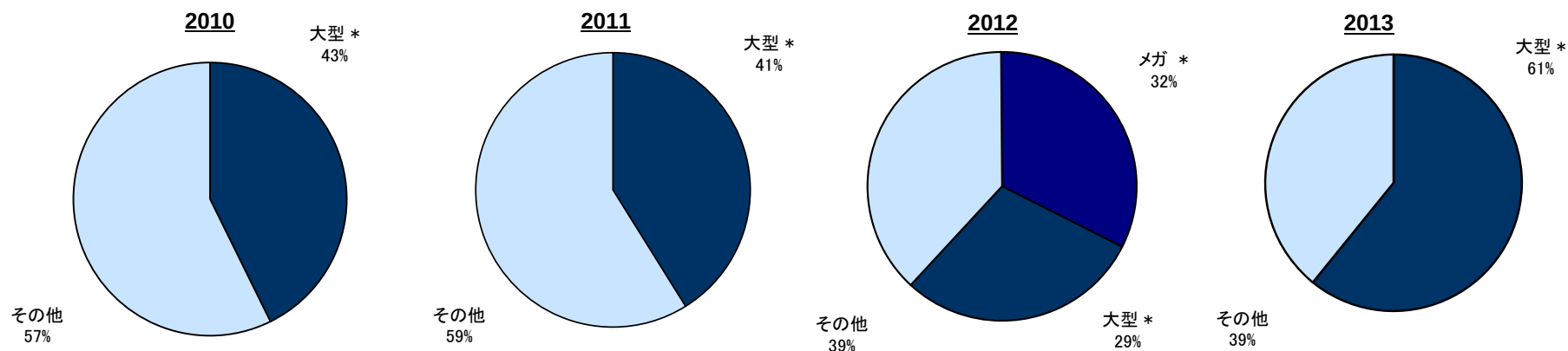
7つの FAチーム

3つのファンクショナルチーム (TSチーム、サポート、バックオフィス)

Appendix

M&Aアドバイザリー事業の補足データ

大型案件比率（金額ベース）



プロフェッショナルの推移

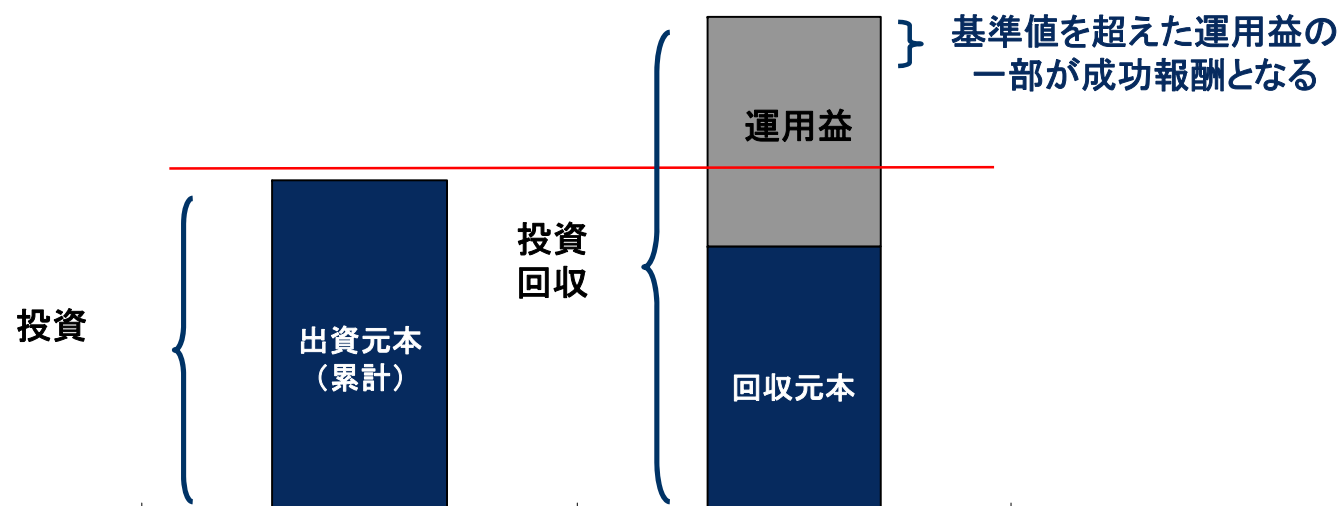
四半期別平均	FY2012				FY2013				FY2013
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	期末
アドバイザリー日本	75	80	80	78	77	78	76	74	75
アドバイザリー米国	65	67	65	65	65	62	64	61	60
アドバイザリー欧州	2	2	1	1	1	1	1	1	1
デューデリジェンス	30	31	31	31	29	30	30	32	31
アセットマネジメント	11	11	11	11	10	10	10	10	10
	183	191	188	186	182	181	181	178	177

（単位：人）

2013年はメガディールがなかった一方で大型案件比率は前年並みの高水準を維持。

メザニンファンドの成功報酬の仕組み

- ✓ メザニンが運用するファンドの累計回収が基準値を上回ったため成功報酬が当期から発生



今後も引き続き成功報酬が期待できる

“ Trusted Advisor For Client’s Best Interest ”

当社はグローバルな「上場M&Aソリューショングループ」=「社会の公器」として価値創出型のM&Aソリューションを提供することにより、クライアントの成長と世界経済の発展に貢献してまいります。



本資料は、GCAサヴィアン株式会社の事業及び業界動向についてのGCAサヴィアン株式会社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。GCAサヴィアン株式会社は将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、本資料公表日現在において入手可能な情報に基づいて、GCAサヴィアン株式会社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載を更新し変更するものではありません。また、掲載された情報の内容の正確性、有用性、また適切性等について、当社は一切保証するものではなく、本資料に記載された内容は、事前の通知なくして変更されることがあります。